

令和6年度 下音更小学校 学校経営方針

令和6年4月2日（火）

下音更小学校 校長 高橋 教之

1 学校教育目標・・・(目指す子ども像にあたる部分)

～民主的でたくましい生活を築く子ども～

- (1) 生活を創造する子ども・・・(主体的でコミカがあり、自立できる子)
- (2) 仲間を大切にする子ども・・・(思いやりのある子)
- (3) 勉強を大事にする子ども・・・(進んで学ぶ子)
- (4) 仕事を進んでする子ども・・・(働くことに喜びをもてる子)
- (5) たくましい体をもつ子ども・・・(生涯を生き抜く強い体をもつ子)

2 目指す子ども像 (令和元年度に作成したものが基本となっている)

(1) 小学校6年間のゴールの姿

～「自立の基礎」を身に付けた子どもの育成～

- 「学習上の自立」～興味・関心のあることについて、進んで学習していくとする姿
- 「生活上の自立」～学習したことを生かして、生活を見つめ直し、より豊かにしていこうとする姿
- 「精神上的自立」～自分のよさや成長に気づき、やる気と自信をもっていろいろなことに取り組んでいこうとする姿

(2) 育てたい資質・能力

- ① 主体性 (自力で粘り強く取り組む態度・自分で考え判断し、行動する力) をもった子ども
 - ② コミカ (自分の言葉で伝える力・話を聞き、深まりのある話し合える力) をもった子ども
- (3) 当たり前なことを当たり前でできる子ども ～「学びの土台」「生活の土台」を身に付ける～
- ① 自分で自分の行動をきちんとできる (あいさつ、人の話を最後まで聞くなど)
 - ② 友だちなど、他の人を大切にする (周りの人の気持ちを想像する、思いやりの心など)
 - ③ 目標に向かって努力する (自分自身を大切にする、自ら考えて行動するなど)

3 目指す教師像

- (1) 子どもの成長や社会的自立のために、学び続ける姿勢を示すことができる教師
- (2) 「子どもに対する愛情や責任感」と「自分の仕事に対する使命感や誇り」をもてる教師
- (3) 礼儀、コミュニケーション能力、豊かな人間性や社会性を持ち、相手を尊重できる教師
- (4) 目の前に課題や問題が立ち上がった時、「チーム下音小」として解決方法を考え実行していくことができる教師

4 下音小の合言葉

☆「明日も学校に行きたいと思える学校に！」

- ①「笑顔」と「自信」にあふれる下音小に！
～学ぶの大好き、友だち大好き、先生大好き、学校大好き
～ああそうか！できた！もっとやりたい！
- ②「チーム下音小」の力で下音小にしかできないことを！
～みんなで考え、みんなで決めて、みんなでやり抜く
～保護者、地域と手をつなぎ、協働して子どもを育てる

5 基本姿勢

(1) 学級経営の基盤は「支持的教室風土」づくり

一人ひとりの児童が自らの存在感を実感することができ、安心して過ごすことができる「支持的教室風土」をつくりあげることが学級経営の基盤。「学力向上」もその土台がしっかりとしてから成り立つものです。さらに、教科の指導と生徒指導を一体化させた授業づくりは、自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安心・安全な「居場所づくり」を意識した取り組みが重要。

(2) 教職員一人ひとりが力を発揮し「チーム下音小」として

学校は組織として教育活動を展開していく場であるが、教職員の個性や経験などは多様である。日々の授業や学級経営、校務分掌などに一人ひとりが責任を持って取り組みながらも「チーム下音小」を意識して実践していくことが学校力の向上につながっていく。そのために、教職員間の意思疎通や意見調整を図り、高め合い、磨き合うことが大切。そして、決まったことは全員で足並みを揃えてやっていきましょう。

- ・「議論や対話をし、決まったらみんなでやろう！」という姿勢をもつこと。
- ・「高め合い、磨き合う職員集団をつくろう！」という意識をもつこと。

(3) 教師としての“当たり前”のレベルアップ

- ① 目指す子ども像に「当たり前の徹底」があると同様に、教師の当たり前もレベルを上げていくため学び続ける必要があります。

「服務規律」（違反・事故の防止、ワイセツ防止、体罰防止、セクハラ防止）の保持徹底
・「信頼は一瞬で失うもの」という意識や「周囲に様々な影響を及ぼす」という自覚と責任をもつ。

- ② 子どもたちの安全確保、危機管理（危険を予知し回避する目）の徹底

・連絡がなく登校していない児童に対しては担任が朝のうちに確認をとる。また、直接担任が保護者と欠席の連絡がとれていない場合（他の職員が電話を受け取った場合）は、放課後に連絡を入れて状況を聞き取る。また、不登校の兆候がある子には素早い対応し、いじめの未然防止・早期発見にも努める。

③ 報告、連絡、相談、確認、記録の徹底

- ・昨年度より1年ごとのクラス編成となり、子どもの記録は大切な引継の資料。校務パソコンにしっかりと入力しておくこと。また、子どもに関わること、保護者対応、自分自身に関すること(場合によって)の管理職への報告、連絡は習慣づけておくことが大切。

6 今年度の重点目標*チーム下音小として『揃える・徹底する・継続する』を徹底しましょう。

(1)「子どもが主語」となる授業改革

- ① 「主体的・対話的で深い学びのある授業」「個別最適な学びと協働的な学びの充実」「子どもが選び使うICTを活用した授業」の実践・検証・改善を行う。
- ② 校内研修を軸に、子どもが回す令和の学習過程を参考とし、授業スタイルを「教える」から「学ぶ」へ転換し、「子どもが主語」となる授業を構築する。

(2)「支持的教室風土」のある学級づくり

- ① 本校における当たり前(学び・生活の土台等)のことを当たり前に行える学級づくり
- ② 一人ひとりへの理解を深めるために寄り添い、できた時には「褒め」、できなかった時には「考えさせ」、意欲や自己肯定感を高める指導
- ③ 保護者との関わりを大切にし、ともに子どもを育てる良きパートナーとしての意識をもち、些細なことでも共有してよりよい関係を築いていく。

(3) 下音小アクションプランの推進 *アクションプランの詳細は別紙参照

- ① 下音小アクションプランについては、年度途中においても随時改善していく。
- ② 全ての職員が自分事として捉え、自分のこれまでの働き方を見直し、学校が「働きやすさ」と「働きがい」を両立する職場となるよう意識して取り組んでいく。
- ③ 職員一人一人がワークライフバランスの視点を持ち、積極的に実践できるよう業務の効率化を図っていく。(月2回以上の定時退勤日の実施・15日以上有給休暇の取得促進)

7 学校実践課題

(1) 学習指導要領への対応

- ① 主体的・対話的で深い学びの一体的な充実の実現に向けた「子どもが主語」となる授業改革
- ② 子どもが自分のタイミングや判断でICTを活用したり、他者と協働して進めたりする学びの充実

(2) 教育課程の工夫・改善

- ① 目指す子ども像の家庭、地域との共有
- ② 主体性、コミカを育てる教育課程の編成
- ③ 「地域学校協働活動」を取り入れた教育課程の編成

(3) 授業改革・学力向上の取組

- ① 普段の授業での振り返り、学調・標準学力調査の短期スパンによる授業改革
- ② 自分の考えを相手に伝える力、相手の考えを聞き取る力を育てるための仕かけづくり
- ③ 加配等の有効的な活用

(4) 豊かな心と健やかな体の育成

- ① 道徳教育、地域学校協働活動等による体験活動等の充実
- ② 安心して過ごせる居場所づくりと「いじめは絶対にダメ！」の徹底指導
- ③ 体力の向上の取組と運動の楽しさを実感させるための体育授業の工夫

(5) 信頼される学校づくり

- ① 「ああそうか！できた！もっとやりたい！」と思える授業の創造をビジョンとした共同研究
- ② 自己の存在感を実感し、安心して過ごすことができる「支持的風土」の学級づくりと家庭との連携。
- ③ 「服務規律」の遵守（交通規則、体罰、ワイセツなど）
- ④ 各種調査の効果的利用（いじめアンケート、Q-Uアンケート等）

(6) 特別支援教育の推進

- ① 「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」に基づいた指導の充実
- ② 支援体制、保護者対応等の問題への対応
- ③ 通常学級における要支援児童への支援の工夫
- ④ 「個別・交流学习」「自立活動」のねらいや指導内容を明確に

(7) 校種間連携の推進

- ① 小中連携協議会を通じた下音更中学校との接続
- ② 幼保小での交流活動と情報の共有と連携
- ③ 同校種連携（鈴蘭小学校）の充実

(8) 家庭・地域との連携

- ① おやじの会、ママズネット、ブックビーンズとの連携
- ② 「学校運営協議会」「地域学校協働活動」との積極的な連携
- ③ 町内会との連携・交流